

平成元年度 会派調査研究報告書

(視察先 1 箇所につき 1 枚)

会 派 名	日本共産党上田市議団	
事 業 名	先進地視察 「商店街再生事業」	
事 業 区 分	①研究研修	②調 査

1 上田市での課題と研修・調査の目的

中心市街地活性化と賑わいを取り戻すことは上田市の大きな課題。中心市街地活性化基本計画は来年 3 月（5 年間）までが計画期間です。商店数は昭和 57 年をピークに以後減少を続けています。上田市全体に比較して中心市街地が大きく減少しています。電線の地中化や上田駅前の整備など行われてきたが、新幹線を降りてまちを歩くとシャッターの降りた個店もあり、さらに週末などは特に賑わいがありません。そんななか新しい商店街のかたちとして再生した宮崎県日南市の油津商店街を知り先進地視察地として選択した。

2 実施概要

実施日時	視察先	宮崎県 日南市															
令和 2 年 2 月 4 日 14:00～16:00	担当部局	(株) 油津応援団															
報告内容・感想（まとめ）・市政に活かせること																	
<視察事項について> ★両市のデータ比較 <table> <tr> <th>項目</th><th>日南市</th><th>上田市</th></tr> <tr> <td>人口（30 年 1 月 1 日）</td><td>5 4, 2 7 1 人</td><td>1 5 8, 5 3 7 人</td></tr> <tr> <td>面積</td><td>5 3 6. 1 1 km²</td><td>5 5 2. 0 4 km²</td></tr> <tr> <td>財政力指数（2 9 年度）</td><td>0. 3 9</td><td>0. 6 0</td></tr> <tr> <td>商工費 2 9 年度金額 （構成比率）</td><td>8 億 7, 8 5 6 0 千円 （3. 2 %）</td><td>5 9 億 5, 0 3 8 7 千円（9. 1 %） ※上田市制度融資金融機関預託金 40 億円 含む</td></tr> </table> <日南市> ・山林：面積の 8 割 （上田市：面積の 7 割）			項目	日南市	上田市	人口（30 年 1 月 1 日）	5 4, 2 7 1 人	1 5 8, 5 3 7 人	面積	5 3 6. 1 1 km ²	5 5 2. 0 4 km ²	財政力指数（2 9 年度）	0. 3 9	0. 6 0	商工費 2 9 年度金額 （構成比率）	8 億 7, 8 5 6 0 千円 （3. 2 %）	5 9 億 5, 0 3 8 7 千円（9. 1 %） ※上田市制度融資金融機関預託金 40 億円 含む
項目	日南市	上田市															
人口（30 年 1 月 1 日）	5 4, 2 7 1 人	1 5 8, 5 3 7 人															
面積	5 3 6. 1 1 km ²	5 5 2. 0 4 km ²															
財政力指数（2 9 年度）	0. 3 9	0. 6 0															
商工費 2 9 年度金額 （構成比率）	8 億 7, 8 5 6 0 千円 （3. 2 %）	5 9 億 5, 0 3 8 7 千円（9. 1 %） ※上田市制度融資金融機関預託金 40 億円 含む															

○日南市は、平成 25 年 7 月から平成 29 年 3 月までの 4 年間で、日南市の中心市街地である油津商店街で 29 店舗の新規出店を実現した。平成 25 年度以前に中心市街地活性化基本計画が平成 24 年 11 月に国から認定。国内の多くの自治体で実施している事業を日南市で取り組んでいたが、平成 25 年 4 月崎田恭平新市長が就任（1979 年生まれ）

○平成 25 年度まちづくりをコンサル会社に委託せずに民間人を登用した。「テナントミックスサポートマネージャーを全国公募、委託金額は月額 90 万円（人件費ではなく委託料）。

全国から 333 人が応募、選考は第一次書類選考で 10 人に、第二次は商店街での公開プレゼン、「油津商店街に 20 店舗の新規出店誘致する」明確な数値目標を示した木藤亮太氏が就任。

仕事は「空き店舗の活用、業種のバランスの配置計画の策定と誘致、タウンマネージメント体制の整備、賑わい創出に関わるサポートと共同体制の構築、中心商店街活性化に資する新規事業の提案と実施、既存店舗への経営改善等に係るリニューアル指導など」でした。

○1 年目は誘致 0 店舗、市民や議会から厳しい声が寄せられた。株式会社油津応援団の設立。

まちの応援団をつくる「普段商店街にかかわらない人をまちづくりに取り込む」

・木藤氏と市の職員とで組を組んでのまちづくり事業に取り組んだことが成功の鍵だという。

○2 年目は誘致 2 店舗 1 店舗目は「アブラツコーヒー」オープン（経営：油津応援団）

2 店目は「湯浅豆腐店」オープン。土曜の夜市に地元小中学生が企画運営して復活。

○3 年目は誘致 15 店舗 商店主は何もしないのかの声が、商店主の心に火がつき、昔からの専門店や新たにおしゃれな公民館、食堂、コンテナガーデンなどがオープン。

・油津応援団の職員は若者が中心、少しずつ日常的に若者がいる商店街になる。マーケティング専門官による、日南市のマーケティングと若者の市外流出を防ぐ取り組みが少しずつ実現。

・IT 企業の進出が始まる。仕事がなければここに住めない。

○4 年目は誘致 28 店舗 IT 企業の誘致 10 社がオープン。100 人近い雇用が生まれ、その影響で平成 29 年には小規模保育園が誕生。同年ゲストハウスオープン。

○木藤氏は、今は別のまちで、再生事業に取り組んでいて、油津商店街で話を聞いたのは（株）油津応援団の若者でした。

＊仕事人木藤亮太氏はシャッター商店街を「再生」したわけではない。新しいコミュニティをつくったということです。

まちづくりには「若者、よそ者、馬鹿者」の三者が必要といわれているが、よそ者、若者が頑張る油津商店街でした。

商店街のイメージは、買い物客で賑わう場所、ありとあらゆる商店が連なるまさしく商店街だった。

しかし、現在の油津商店街にあるのは、カフェやゲストハウス、居酒屋、レンタルスペース、子どもの遊び場、I T企業、工務店、保育園などで「商店」に分類される業種は少ないことから、もはや「商店」街ではない。

人口が減少し、経済が縮小していくこれからの社会の中で商店街の新しいあり方を考える必要が今求められている。それは、商店街の課題を解決することではなく、商店街という空間の新しい役割・あり方を考えていく、新しいニーズに合わせた求められる商店街の姿を実現していくこと。

商店街の未来とは、昔よかった頃に戻りたいではなく、今必要とされるまちに変化しようと努力すること。

「業態」

飲食店：7、食品販売：5、美容・サービス：3、物販店：1、I T企業：8、保育施設：1

事業所：2、宿泊所：1

「出店形態」

会社経営：3、独立起業：11、域内移転：2、2店舗目：2、I T企業（誘致）：8、その他：2

【合計誘致数 28】



○商店街活性化の記念すべき第一号店の「アブラツコーヒー」前で

* 視察先の写真等がある場合は添付のこと

令和元年度 会派調査研究報告書

(視察先 1 箇所につき 1 枚)

会 派 名	日本共産党上田市議団	
事 業 名	先進地視察「鹿屋市教育旅行ガイド」	
事 業 区 分	①研究研修	②調 査

1 上田市での課題と研修・調査の目的

「争いのない世界を願う」非核平和都市宣言をしている上田市にとっても、平和行政は重要な課題である。鹿屋市は、戦争遺跡と観光行政を一体に取り組んでいる。一般社団法人鹿屋市観光協会が行っている教育旅行ガイドを視察し、上田市における平和行政の参考としたい。

2 実施概要

実施日時	視察先	鹿児島県 鹿屋市
令和元年 2 月 5 日 9:00～ 11:30	担当部局	鹿屋平和学習ガイド事業

報告内容・感想（まとめ）・市政に活かせること

視察事項について

○鹿屋市は九州南東部、大隅半島の中央部に位置する。

人口 10 万人を擁して大隅半島の行政・経済・産業の中核となる都市である。温暖な気候と豊かな自然を活かした農業・畜産が盛んである。

また、海上自衛隊鹿屋航空基地があることでも全国的にその名が知られている。

鹿児島県内では 3 番目の人口規模を有する都市である。



○鹿屋市認定「鹿屋平和学習ガイド」と行く “鹿屋市の戦争遺跡めぐり”観光協会) 事業を視察研修
視察場所順に

- ★集合場所は、鹿屋市観光物産総合センター
- ★小塚公園慰霊塔
- ★桜花の碑
- ★高須トーチカ
- ★金浜海岸

★集合場所は、鹿屋市観光物産総合センター



鹿屋航空基地史料館と隣接する敷地にあり、鹿屋及び大隅半島の特産品を販売しています。お菓子や焼酎、ドレッシング、かのやバラ園のバラのアイスクリームなど、種類も豊富です。

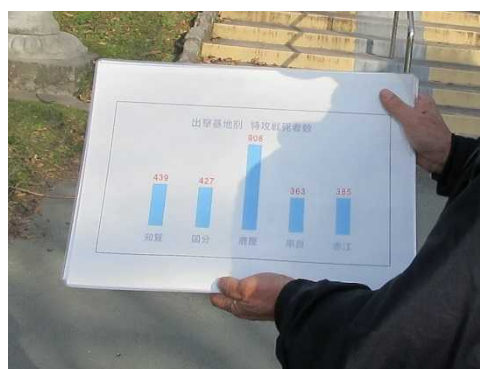
集合場所に戻ってこないで、出かける前に特産品を購入させてもらいました。

★小塚公園（慰霊塔）



海軍鹿屋基地から出撃し命を落とした特別攻撃隊908名の御霊を祀る慰霊塔が建てられています。

ガイドの方は、手作りのボードを用意して詳しく説明してもらいました。



小塚公園には特別攻撃隊908名の御霊を祀る慰霊塔が建てら

れており、毎年4月には慰霊祭が行われています。

特攻隊員が最も多く出撃した「鹿屋基地」

なかでも鹿屋基地は、真珠湾攻撃の作戦計画が練られたことでも知られた主要基地で、戦争が激化した昭和20年になると、各基地の特別攻撃を指揮する第五航空艦隊司令部が鹿屋基地に置かれました。

鹿屋基地からは日本で最も多い908名、串良基地からは363名の特別攻撃隊員が出撃し戦死しています。

特別攻撃隊員出撃戦没者数(主な基地)

種別	出撃基地	特攻戦没者数
海軍	鹿屋	908名
陸軍	知覧	439名
海軍	国分	427名
海軍	赤江	385名
海軍	串良	363名



特攻隊出撃
(桜花を積んだ一式陸攻)

★桜花の碑



戦争の末期、人間爆弾・桜花作戦を行った神雷部隊が宿舎としていた野里国民学校跡地として建立されました。

道路の反対側に野里国民学校跡地がありますが、現在は水田となっています。当時のようすをうかがえるのは、国旗掲揚塔の跡が残っているところでした。

★高須トーチカ

米軍の本土上陸に備えて海岸部に作られたトーチカ（陣地）です。コンクリートののぞき窓は海岸方向に向けられています。

下の左の写真の上部にあるのが、コンクリート製のトーチカです。

右の写真は、トーチカの裏側に回って説明してもらいました。



★金平海岸

終戦後の昭和20年(1945年)9月4日に進駐軍アメリカ海兵隊2,500人が上陸した海岸です。

道路わきには、「進駐軍上陸地の碑」があります。海岸におりる梯子がありこれを降りていくと金浜(かなはま)海岸です。アメリカ進駐軍が初めて上陸した日本の浜と紹介されています。

当日は、この場所で特別攻撃隊員(特攻作戦)がモールス信号により打電した当時の音を聞かせてもらいました。



＜感想(まとめ)・市政に活かせること＞

- ・戦時中、鹿屋には3つの飛行場(笠野原・鹿屋・串良)がありました。なかでも鹿屋基地は海軍の主力基地で、昭和16年には真珠湾攻撃の作成計画が練られた「鹿屋会談」が行われた基地としても知られています。
- ・鹿屋基地は、真珠湾攻撃の作戦計画が練られたことでも知られた主要基地で、戦争が激化した昭和20年になると、各基地の特別攻撃を指揮する第五航空艦隊司令部が鹿屋基地に置かれた。
- ・鹿屋基地からは日本で最も多い908名、串良基地からは363名の特別攻撃隊員が出撃しています。
- ・修学旅行のシーズンには中学生や高校生が来て戦争と平和について学習する機会となっています。
- ・真珠湾攻撃の作戦計画が練られたことでも知られた主要基地があったことなど、歴史的背景として多くの戦争遺跡が存在することもあり、鹿屋市教育旅行ガイド事業として取り組まれています。

○上田市には戦時中、飛行場があり長野県内で唯一空襲のあった地域です。また、戦闘機の燃料確保のための市内には、松ヤニ採取の痕を有しています。こうした戦争の跡を平和学習ガイドにも活かしていく参考となった。

※鹿屋市平和学習ガイド戦争遺跡調査員の小泉さんら研修中ということで2人がついてくれて現地での案内をしてもらいました。特攻基地は、鹿児島県の知覧特攻平和会館が有名ですが、鹿屋市にはものすごい歴史的な場所があるが分かりました。

＊ 視察先の写真等がある場合は添付のこと

令和元年度 会派調査研究報告書

(視察先 1 箇所につき 1 枚)

会 派 名	日本共産党上田市議団	
事 業 名	先進地視察「認知症問題の取組みについて」	
事 業 区 分	①研究研修	②調査

1 上田市での課題と研修・調査の目的

上田市でも高齢化が進んでいますが、高齢期を迎えても、それぞれが生きがいを持ち個人の尊厳が保たれ、その人が望む生活を日々送ることができる社会の実現が望まれます。認知症になっても住み慣れた地域で生活を継続するためには、医療・介護や生活支援を行うサービスが有機的に連携したネットワークを形成し、効果的な支援を行うことが重要です。

小林市は、認知症サポーター15000人をめざし、また認知症サポートリーダーにより様々な活動が活発に行われています。他の活動も含め、先進的な取組みを視察したい。

2 実施概要

実施日時	視察先	宮崎県 小林市
令和2年2月6日 9:30 ~11:00	担当部局	小林市長寿介護課 小林市地域包括支援センター のじり地域包括支援センター
報告内容・感想（まとめ）・市政に活かせること		

1 小林市の概要及び特徴

2006年小林市・須木村合併で発足。2010年小林市・野尻町合併。県の南西部に位置し、北は熊本県、南は鹿児島県に隣接する。農業では宮崎牛をはじめとした畜産や、マンゴー、メロン、梨などの果樹が主産品。良質な湧水が多く蜚の生息地としても知られる。

2017年（平成29年）完成した小林市庁舎は、市産材(市有林)の活用(スギ・ヒノキ、8,000本)しており、木のぬくもりが感じられる建物でした。



2 視察事項について

認知症問題の取組みについて

○小林市の人口推移と高齢化率

- ・2019年 人口 45,530人 高齢化率 35.44%
- ・2025年（推計値）人口 42,067人 高齢化率 38.0%

○第7期介護保険事業計画に盛り込んだ、7つの認知症施策

- ①認知症高齢者・家族への支援
- ②認知症高齢者の権利擁護・虐待防止
- ③認知症初期集中支援チームの設置
- ④認知症地域支援推進員の設置
- ⑤認知症ケア向上推進事業の実施
- ⑥若年性認知症施策の実施
- ⑦市民後見人の育成、支援組織の体制整備

○認知症サポーター養成講座をどのように取り組んでいるか。

- ・平成21年度より、地域包括支援センターに委託して実施
- ・平成24年度「めざせ！認知症サポーター15,000人」を掲げる。
（令和元年8月末 12,212人）
- ・開始時は、市が日時を設定して開催（各地区公民館単位・サロン等）3年目以降は、小・中学校、消防団、銀行、スーパー等に定例的に実施してもらえるように広報している。（問い合わせのあった事業所・団体で実施）
- ・養成講座の内容は、認知症とは何か、認知症の症状、認知症の方への接し方、サポーターとして何ができるか等（時間は1時間～1時間半）劇、紙芝居、DVD鑑賞（事例紹介）グループワーク 団体等に合わせて内容変更している。

○認知症サポートリーダーの養成と活動

- ・認知症サポーターの中でリーダーとなって、地域校区ごとに支援活動を行ってもらえる方を養成し、認知症の方とその家族を支援する地域活動を行う。
- ・年6回、1回2時間の講座で、平成24年度から実施。現在236名。
- ・小林市介護予防サポーターポイント制度・・・サポーターが行った活動の実績を評価したうえで、ポイントを付与し、申請によって商品券を交付（20,000円が上限）
- ・主な活動内容
地域コミュニティサロン「茶飲ん場」毎週または隔週、中には毎日、週2回の所もあり
13カ所で実施。内容はお茶会、体操、趣味活動等
認知症カフェ 毎月1回～2回 6カ所で実施 認知症の方の社会参加の場を提供
傾聴活動 ひとり暮らしや日中独居の高齢者・認知症の方のお宅に伺い、1時間ほど話相手をします。

○その他の認知症関連事業

- ・家族介護者の集い 地域包括センターごとに毎月か3か月に一回実施
- ・声かけ見守り訓練 「認知症の人が家を出て戻らない。」という想定で、外出者役が地区内を歩き、地域住民に声掛けを体験してもらう。平成23年度より毎年実施して、毎回100名前後参加
- ・オレンジ芋プロジェクト さつまいもの苗植えから管理、収穫までの農作業を認知症の方や地域住民等と協力して行うことで、認知症の方の回想法や、参加者の理解を広げ地域での支え合い力向上をめざしている。収穫祭では芋の天ぷらも揚げて皆でいただく。

平成27年度より実施

- ・認知症研修会 平成25年度より実施。30年度からは、認知症当事者の方も講師を務めています。
 - ・認知症のための生活ガイドブックを作成、配布。また、援助機関を利用する際の標準的なケアの流れをつくるとともに、情報共有、地域での支え合いを目的に認知症ケアパスとしてコスモス手帳を作成。
 - ・「認知症初期集中支援チーム」を平成29年度に設置し、早期診断・早期対応に向けた支援体制構築。
- 平成30年度実績は24名。

○介護予防の取組み

- ・介護予防普及啓発事業 パンフレット作成 講演会 介護予防教室の開催（包括支援センターへ委託）
- ・介護予防に関するボランティア等の人材育成・・・介護予防推進員兼貯筋運動普及員

○生活・介護支援サポーター等

- ・住民主体の通いの場等の実施への支援 通いの場に定期的に訪問し、3か月ごとに評価及び指導を行い、グループ等の適性//8にあった活動内容を提案する。
- ・貯筋ステーションの取組み 地域住民が主体となって、健康・体力づくりおよび介護予防のために貯筋運動を実施している教室を総称して「貯筋ステーション」と呼んでいる。

平成31年度末現在 18カ所

○地域包括支援センターについて

- ・主な役割 介護予防ケアマネジメント、権利擁護業務、総合相談支援業務、ケアマネジメント支援業務
- ・小林市地域包括支援センター 小林市社会福祉協議会に委託 職員22名
- ・のじり地域包括支援センター 社会福祉法人敬愛会に委託 職員8名

○小林市では、認知症サポーター数15,000人、人口の3分の1をめざしています。共に支え合う地域社会の実現には、有効な取組みだと思っています。

※上田市では、第7期上田市高齢者福祉総合計画で、来年度の目標を15,800人としていますが、各団体等に積極的な働きかけを行い、団体ごとの取組みを推進することが必要だと感じました。

○小林市では、認知症サポートリーダー、生活・介護支援サポーター、傾聴サポーター、介護予防推進員、貯筋運動普及員を、系統的に共通講座も行い養成しています。この皆さんが地域で生き生きと活発に活動されています。

※上田市でも、共通養成講座（年6回～7回）を準備し認知症サポーター講座受講者、自治会の健康推進

委員等、幅広く受講者を募ることを開始すべきだと思いました。

○介護予防サポーターポイント制度は、ボランティア活動を続ける励みになると感じました。

※上田市では自身の健康づくりにポイントが付きますが、ボランティア活動にこそ必要ではないかと思いました。

○認知症・介護予防施策を主に担っていただいているのは、小林市では二つの地域包括支援センターです。職員は合わせて 30 名です。

※上田市では、地域包括支援センターが 10 カ所あり、平成 30 年度の職員数は合計 51 名で、相談件数は 48, 678 件です。人口比からいえば、上田市は小林市の 3. 4 倍程度の人数が必要であり 100 名以上となります。求められている機能は同じですが、人手不足で手が回らないという実情です。地域包括支援センターの大幅な職員増等、機能充実を図ることの必要性を再認識しました。



＜小林市役所にて＞

★両市のデータ比較をすると

項目	小林市	上田市
人口（平成 31 年 1 月 1 日）	4 5, 9 9 0 人	1 5 8, 1 1 1 人
6 5 歳以上人口	1 6, 0 7 0 人	4 6, 9 8 1 人
高齢化率	3 4. 9 %	2 9. 7 %
サポーター講座開催回数	4 1 4 回	4 9 6 回
メイト数	2 6 6（1 3 9 / 1 2 7） （活動/非活動）	2 3 8（1 5 0 / 8 8） （活動/非活動）
サポーター数	1 2, 2 9 4 人	1 5, 4 3 1 人
メイト＋サポーター（A＋B）	1 2, 5 6 0 人	1 5, 6 6 9 人
総人口に占める割合	2 7. 3 1 0 %	9. 9 1 0 %
一人当たり担当高齢者人口	1. 3 人	3. 0 人
総人口 1 万人当たりの講座開催回数	9 0. 0 2 0 回	3 1. 3 7 0 回

* 視察先の写真等がある場合は添付のこと